

THE BULLETIN OF THE NAGASAKI UNIVERSITY LIBRARY

No.84

図書館ニュース

NOV. 30, 2001

目 次

電子ジャーナルの本格導入に向けて	1 ~ 3
学生用図書紹介	4
平成13年度前期実施「図書館ガイダンス」結果報告	5 ~ 6
情報コンセントルーム紹介	7
長崎大学関係出版物コーナー開設	8
インフォメーション・ディスプレイ・システムの導入	8
ミニギャラリーとして活用を～教育文化週間の展示から～	9
長崎大学説明会にともなう図書館の公開について	10
各種データ・ベース説明会の開催	10
研修報告	11 ~ 12
人事異動及び委員交替	13
図書館日誌	13 ~ 14

電子ジャーナルの本格導入に向けて

2002年1月、長崎大学から全文アクセス可能な電子ジャーナルが倍増します。2001年11月現在で約1,500誌の全文を利用できますが、1月にはこれが約3,000誌に増加します。ちなみに、引用文献データベースとして有名なISI Web of Scienceの採録誌数は約8,900。一方、長崎大学で購読している従来型の外国雑誌数は約1,500です。

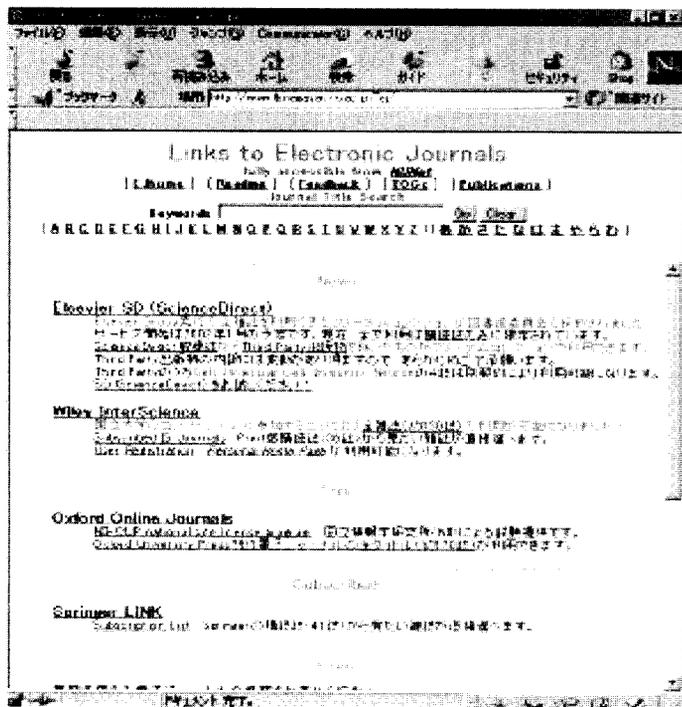
電子ジャーナルはパーソナルユースとリソースシェアリングの両立をほぼ完璧に実現するものであり、シェアリングの範囲は物理的な隔たりを飛び越えて、一大学内から複数大学のコンソーシアム（連合体）へと拡がりつつあります。

また、電子ジャーナルは従来の学術情報出版や流通の制度に根本的な反省を促すものであり、リソースシェアリングの究極の形とも言える "Public Library of Science" の実現を目標とするプロジェクト (<http://www.publiclibraryofscience.org/>) も始動しています。

長崎大学にとって2002年は電子ジャーナルの本格的な導入の初年になると思われます。新しい学術情報媒体を共同で導入していくために、学内合意を形成しなければならない時期が来たようです。

図書館ホームページから電子ジャーナルが利用できます！

附属図書館では、長崎大学からアクセス可能な電子ジャーナルへのリンク集を Web サイト上に設置しています。利用は無料です。どうぞご利用ください。
(電子ジャーナルリンク集の URL は <http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/~ej/> です。)



図書館ホームページのサービス項目から [電子雑誌] (英語版では Electronic Journals) を選択してください。

左図のような電子ジャーナルのページ [EJhome] が開きます。ここには、最新情報や主な電子ジャーナル提供サイトへのリンクが掲載されています。

最初に [Readme] をクリックして「利用上の注意」をお読みください。

上部のアルファベットをクリックすると下図のような雑誌名一覧が開きます。

キーワードによる誌名検索も可能です。

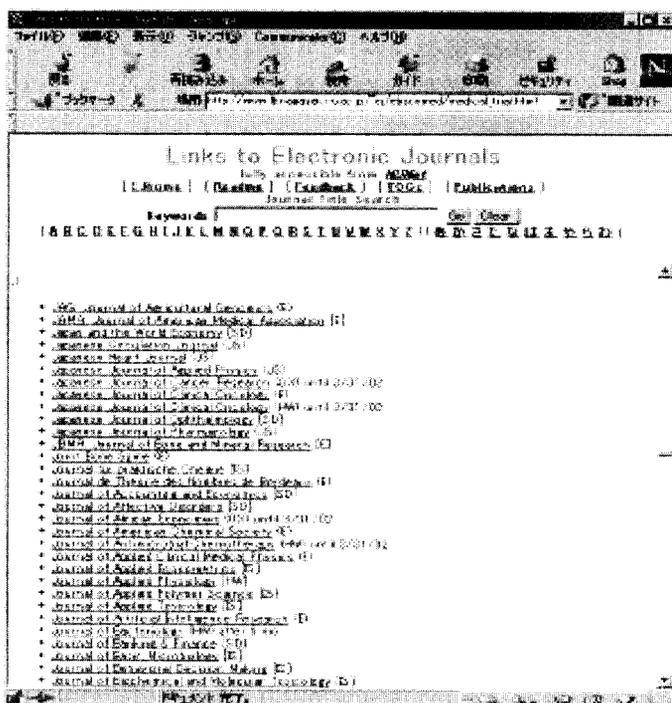
長崎大学で購入しているものを中心に、長期間安定してフルテキストが利用できるものをリストアップしています。

見たい雑誌をクリックすれば、その雑誌のホームページにジャンプします。

全文アクセスに ID とパスワードの入力を要する場合、別ウィンドウが開くなどして、必要な情報をお知らせします。

雑誌名の後の略記号は、その雑誌が収録されているサイトを示しています。

[Feedback] をクリックすると「連絡先」ページが開きます。お問合せやご要望の連絡などにご利用ください。

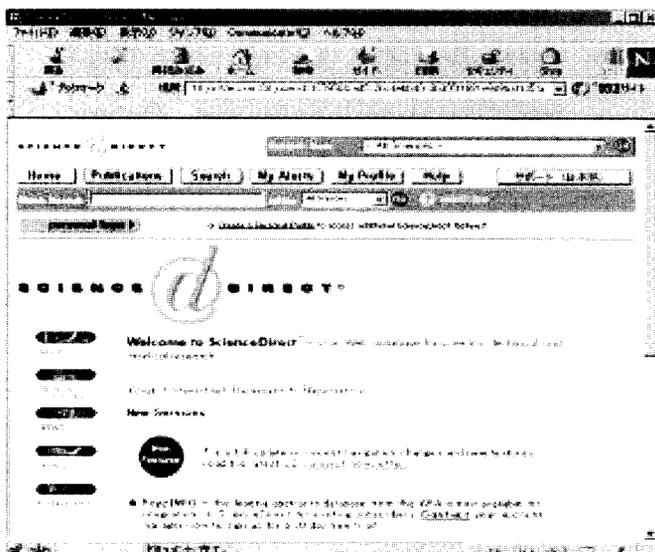


※フルテキストのご利用は文献情報データベースや他の文献からリンクをたどることによっても可能です。上記方法はリンク先のフルテキスト利用の可否を確認するのに使えます。

※電子ジャーナルのページは随時更新されます。ここに引用したのは平成 13 年 11 月現在の画面です。ご利用の際は当該 Web ページの記載事項をよくお読みください。

以下の出版社のすべての電子ジャーナルが利用できます！

多数の出版社の電子ジャーナルが使えますが、以下の3社については全タイトルが利用できます。各サイトのホームページから入ると、それぞれの特徴的な機能を生かした使い方ができます。



←Elsevier ScienceDirect
(<http://www.sciencedirect.com/>)

Elsevier Science Groupが発行する学術雑誌約1200誌の学術雑誌のフルテキストが利用できるフリーダムコレクションです。

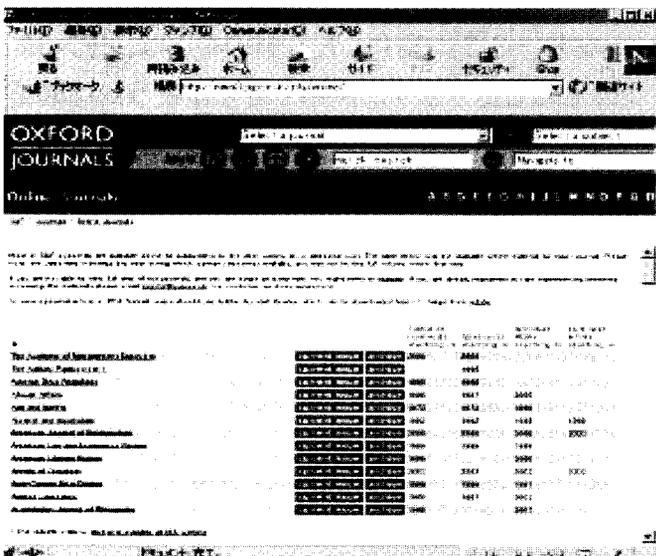
MEDLINE、Web検索エンジンのScirus、分野別ホームページ、引用論文検索・アラート機能、基本と上級の二つの検索方法、文献管理ソフトへのエクスポート機能、発行前の論文を見るArticle in Press、日本語サポート等があります。

Wiley InterScience →
(<http://www.interscience.wiley.com/>)

Wiley社が発行する約330の学術雑誌のフルテキストが利用できます。

国立大学図書館のコンソーシアムに参加することにより全タイトルの利用が可能になりました。

SimpleとAdvancedの二つの検索方法、出版前の論文を見るEarly View、ユーザホームページによる雑誌・論文・検索式の登録呼出、新着アラート等があります。



←Oxford Online Journals
(<http://oup.nii.ac.jp/online/>)

国立情報学研究所(NII)とOxford University Pressによる、ナショナル・サイト・ライセンス・プログラムです。

平成13年度より約170誌が提供されていますが、平成14年度も継続することが決まっています。

生命科学、医学といった自然科学分野の他、経済学、法学などの人文科学分野の雑誌も含まれています。

(電子情報係)

学生用図書紹介

～新刊図書など続々受入中です！～

附属図書館（中央館・医学分館・経済学部分館）では、主に学部学生や院生のみなさんに利用していただくために、毎年「学生用図書」を購入しています。

「学生用図書」には、各学部等の先生方から、授業の予習復習や教養に役立つ資料として推薦された図書と、専門を超えて利用できる基礎資料として選定された「共通資料」があります。今回は「共通資料」を中心に紹介いたします。

1. オンラインデータベース

学内のどのパソコンからでも、インターネット経由で利用できます。図書館のホームページの中から「DB 検索等」をクリックすると、データベースの名前が並んでいます。上から3つが、学生さん向けの「共通資料」として購入している日本語のデータベースです。

レポートや論文作成のための資料収集に、きっと役立ちます。

- ① NICHIGAI/WEB（さらに3つのデータベースにわかれています）
 - ・ BOOKPLUS・昭和元年から現在までに出版された書籍の情報。内容や目次情報も。
 - ・ MAGAZINEPLUS・国内の雑誌・論文集などに掲載された論文の情報520万件。「雑誌記事索引」のデータを含む。
 - ・ 作家・執筆者人物ファイル・日本の作家・執筆者10万人のプロフィール。
- ② Digital News Archives for Library・朝日新聞(1984～)の記事検索。全文が読めます。
- ③ ネットで百科 for Library・オンライン版「世界大百科事典」

2. 事典類

- ① 中央館備付け
 - ・ 科学・技術大百科事典（朝倉書店）
 - ・ 世界地理大百科事典. 1, 2, 3, 6 巻（朝倉書店）
- ② 医学分館備付け
 - ・ Encyclopedia of Life Science (Nature Pub.) …2002年1月から1年間、オンライン版も利用できます（全キャンパスから利用OK）。
- ③ 経済学部分館備付け
 - ・ 全国各種団体名鑑 2001（シバ）

3. シリーズもの

- ① 中央館備付け
 - ・ 放送大学テキスト…平成13年度新刊分 65冊
 - ・ 実験化学講座. 第4版（丸善）…中央館未所蔵分を補充しました。
- ② 経済学部分館備付け
 - ・ 基本経済学シリーズ. 全18巻（八千代出版）
 - ・ 現代法学双書. 全18巻（八千代出版）
 - ・ 現代経営学講座. 全12巻（八千代出版）

ほかにも新しい図書、約2000冊が続々入って来ています。ぜひ、図書館でお気に入りの本、役に立つ本を見つけてください。

なお、ここに紹介した資料の中には、未入荷のものもあります。利用できるかどうかは図書館ホームページのOPAC（蔵書検索）で確認してください。

（資料管理係）

平成13年度前期実施「図書館ガイダンス」結果報告

長崎大学でも本年度から利用者に対する「図書館ガイダンス」として、図書検索コース・雑誌検索コース・新聞記事検索コースの3コースを準備して実施しましたが、前期を終えた時点での「図書館ガイダンス」の結果を報告します。

1. 開催回数及び参加者人数

図書館ガイダンスは、参加希望者からの申込制として、参考調査係2名で担当しました。

実施回数は33回、総参加人数は延べ252人でした。

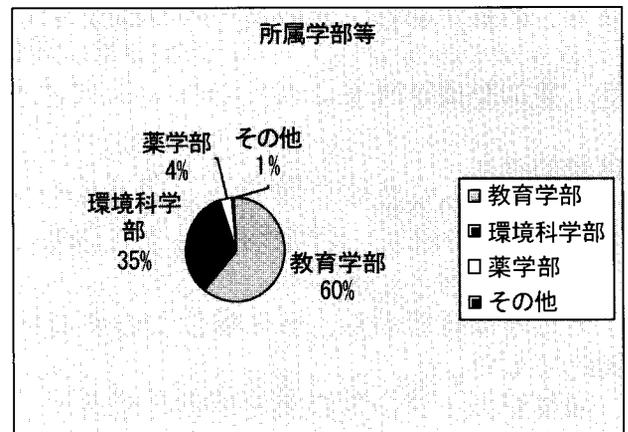
2. 参加者所属学部

教育学部	152人	(60.3%)
環境科学部	88人	(34.9%)
薬学部	10人	(4.0%)
その他	2人	(0.8%)

参加者の所属学部については、教育学部・環境科学部などの、いわゆる「文科系」学部がほとんどでした。図書館利用ガイダンスをはじめて実施した本年については、文教地区全教官あて実施案内を文書で配布しましたが、特に工学部や水産学部・薬学部について、参加者が少ない結果となりました。

これらの学部の学生の1・2年生についても、雑誌検索コースや特に後期実施の文献情報検索応用コースにおけるデータベースや電子ジャーナルに関する利用機会及びガイダンスの需要は十分に存在すると考えられます。

教官、学生、院生への後期実施ガイダンスの広報の際には、この点も強調しています。

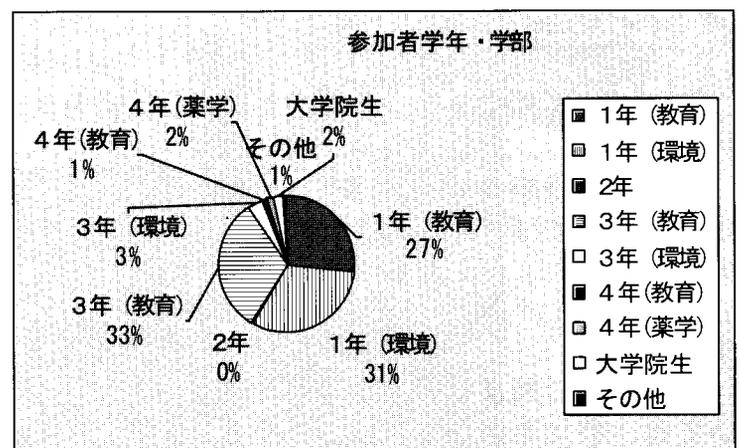


3. 実施対象学年

学部 1年	147人	(教育=68, 環境=79)
2年	1人	(環境=1)
3年	89人	(教育=81, 環境=8)
4年	8人	(教育=3, 薬学=5)
大学院生	5人	(薬学=5)
その他	2人	

実施対象学年については、後述のようにゼミ単位の申込みが中心でしたので、文系の1年生およびゼミに入ったばかりの3年生に集中しています。これらの学生に対しては、つづく後期のコースにも参加して

もらうように、指導教官を中心に個別に再度勧誘したいと考えています。また、前期ガイダンスに参加していない文系の3・4年の学生に対しても、データベース名を挙げてゼミでの発表や卒論作成等に有利だとのことを説明しながら、さまざまな機会をとらえて、参加者を一人でも多く獲得したいと計画しています。

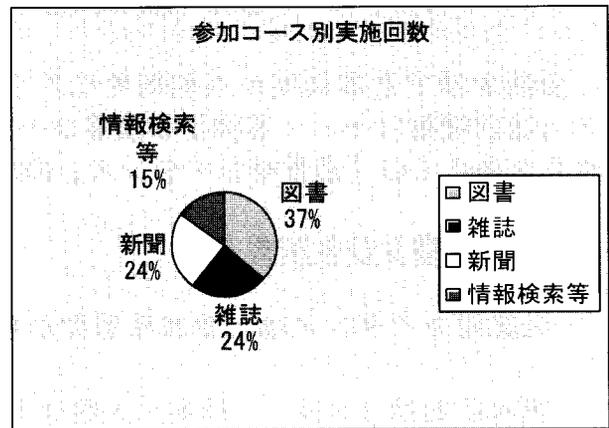


4. 実施内容

図書検索コース	12回 (参加人数93人)
雑誌検索コース	8回 (参加人数66人)
新聞記事検索コース	8回 (参加人数54人)
情報検索その他	5回 (参加人数80人)

(※参加人数は延べ数)

前期は、図書検索コース・雑誌検索コース・新聞記事検索コースに分けて実施しましたが、申込者からの要望によって複数のコースを同じ時間中に説明したことがしばしばありました。その結果、実施内容はバランスが良いものとなりました。また、説明者も、参加者の学部学年に合わせて、必要があれば他のコースの部分も関連させながらガイダンスを実施しました。

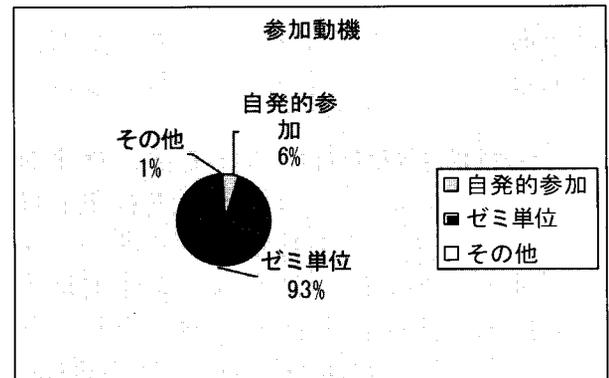


5. 参加動機

自発的参加	14人
ゼミ単位での参加	236人
その他	2人

申込みは教官から、ゼミ単位での参加希望が圧倒的でした。

図書館ガイダンスの実施事実の浸透が、今一步であったかも知れない本年前期においては、自主的な参加者が少なかったのは、仕方がない結果かもしれません。しかし、今後この割合を伸ばすことは、実施側の成果・努力の現われであると考えられます。参加者の必要性を的確に把握したガイダンスを実施すれば、それが次の新たな参加者を呼ぶこととなります。この自発的な参加者が増加することが、今後のガイダンスの課題と考えています。

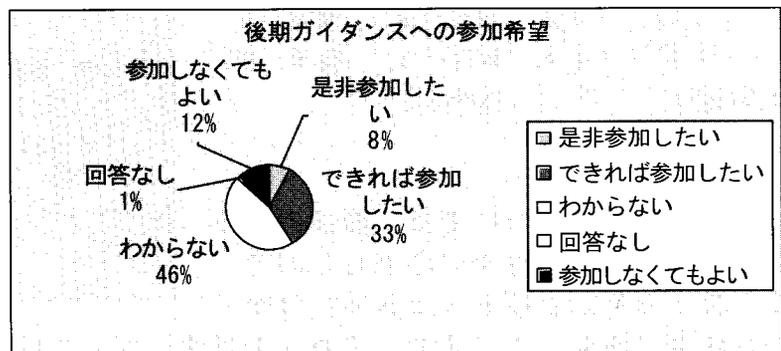


6. アンケート

ガイダンス実施後に、今後のガイダンスの参考にするためにも、無記名アンケートを実施しました。

コースの説明内容・レベル・説明技術については、9割以上が良好との結果でした。(しかし、それに安心してはいけないと思っています。)

後期実施の図書館ガイダンスについては、参加希望が4割、分からないが5割弱でした。この参加するか分からないとの回答層を参加するへと誘導する努力が必要と考えています。
(参考調査係)





情報コンセントルーム開設

附属図書館に「情報コンセントルーム」を新設しました。

「情報コンセントルーム」は、皆さんの手持ちのノートパソコンを持参して使用する部屋です。

設置場所は、附属図書館3階、新聞コーナーの右奥で、情報コンセントを56口用意しています。インターネットに接続して、学術情報、就職情報等の収集や各種ソフトを使って論文、レポート、プレゼンテーション等の作成などに活用してください。

利用にあたっての設定、操作等についてはマニュアルを用意していますので、備付けの「マニュアル」をごらんください。

なお、利用についてご質問等がありましたら、2階カウンターの「資料サービス係」及び「参考調査係」までお越しくください。

皆さんの大いなる利用・活用をお待ちしております。(資料サービス係)



長崎大学関係出版物 コーナーの新設

中央図書館の2階の入口のすぐ正面のところに「長崎大学関係出版物コーナー」を設けました。

すぐに目立つように、青地に白文字のプレートでコーナー名を表示しています。

このコーナーでは、長崎大学に関係した出版物を一ヶ所に集めて、

- ・本学関係教官著作寄贈図書
- ・本学研究紀要類
- ・本学報告書／シラバス類
- ・本学概要／広報誌等

に分類して、並べています。

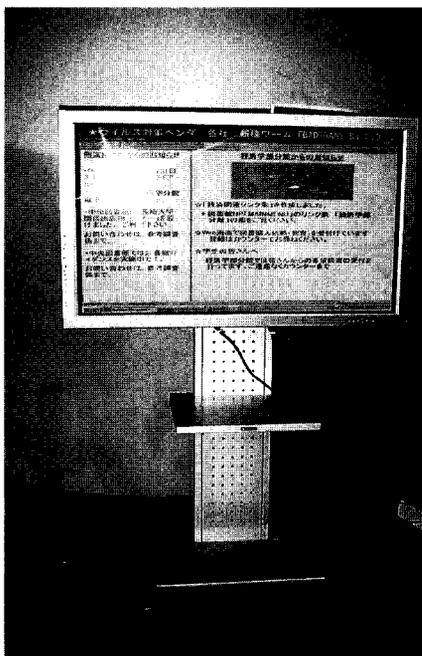
利用者みなさま、長崎大学関係の情報の調査にお役立て下さい。

また、教職員の皆様には上記関係の記事を執筆・発行されたおりに、どうかこのコーナーへの寄贈をお願いいたします。

皆様からご協力を得ながら、「ここに来れば、長崎大学関係の資料が揃う」というコーナーに育てていきたいと考えています。
(参考調査係)



(長崎大学関係出版物コーナー)



(インフォメーション・ディスプレイ・システム)

インフォメーション・ディスプレイ・システムの導入

附属図書館では、各館の入口の付近に、インフォメーション・ディスプレイ・システムを設置しました。

このシステムは、50型のプラズマディスプレイを使って、図書館の最新の情報を提供するものです。

画面を分割して、附属図書館全体の共通情報は常に固定的に表示していますが、残りのスペースには、3館のそれぞれの固有の情報を画面を交替させながら発信しています。したがって、どこの館にいても、共通の、

- ・新たな図書館サービスの開始
- ・開館時間の変更

などの重要な情報を知ることができます。

新鮮な図書館情報をその都度更新しながらお届けいたしますので、どうかご利用ください。
(参考調査係)

ミニギャラリーとして活用を

～教育文化週間の展示から～

附属図書館3階ブラウジングコーナーの壁は小さな展示スペースである。これまでも時々写真額を架けたりして幾つかの展示を行っていた。

さて、本学附属図書館が所蔵する「幕末明治期日本古写真コレクション」約5,400点のうち、全国各地の光景（建造物等も含め）を写したものは約3千点である。しかし、長崎を除く九州各地を写した画像は、残念ながら重複を含めても、16点しかない。これらの写真は見てもらう機会もなかなか無いので、本年11月の教育文化週間に因み、ここに「古写真で見る明治の九州」という小さな企画展示を行った。

額装した画像9点に加えて、壁面前に置いたショーケースには、最近発行・受入された古写真集等を8冊展示し、その中に九州関係の画像があるものについては、その部分を開いておいた。

入館して3階にきた学生諸君の何人かが足を止めて見てくれたようなので、ホッとしました。あまりにも小さな展示会なので、特に広報もしないつもりでいたが、「せっかくだから」と学内のメーリングリストでお知らせしてもらい、また図書館玄関前の掲示板に案内を出しておいた。

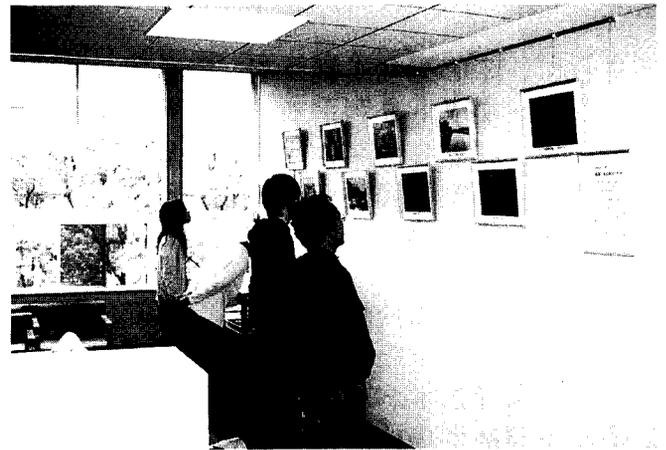
それが、構内を歩いていた長崎新聞記者の目に留まり、取材というか、古写真全体の説明をすることになり、3日付の「ホットほっと街角」というコラム欄で紹介していただいた。このためか、期間中には、やはり構内を通行していた何人かの市民の方も案内に気づかれて入館見学して行かれた。但し、あまりにも展示点数が少ないので、物足りないという印象は否めなかったようである。

しかし、終わったから書けるのだが、たった9枚の画像であっても、その展示には気を使うことが多い。図書館所蔵の各古写真の画像は、古写真研究会の先生方により撮影地点、撮影者などが判定（同定）されているのだが、全部完了しているわけではなく、また疑問や間違いがある場合もあり、クレームが付かないかと気になる。先年、

市内のデパートで古写真展示会を開催したときも、解説文の誤記の訂正や意見への対応に追われたことを思い出す。

なお、今後もこのスペースを使ってさまざまな展示を実施して、資料の紹介やアメニティの向上になることを願っているが、ここをミニギャラリーとして、学生諸君の作品、例えば美術部、写真部等の展示にも利用していただければ大変嬉しい。

（図書館専門員）



（展示パネルに見入る見学者）

長崎大学説明会にともなう 図書館の公開について

平成13年7月23日(月)に開催された長崎大学説明会に合わせて、附属図書館でも当日、説明会に参加した高校生を対象に図書館を公開しました。

図書館3階ブラウジングコーナーでは、当館が所蔵する「幕末・明治期日本古写真コレクション」のなかから、長崎ゆかりの出島等の古写真複製パネルや「グラバー図譜」から、彩りも鮮やかなアラカブなどの写真複製パネルを、合計20点ほど展示しました。

さらに、この機会を捉えて、図書館2階のインターネットを利用できる端末のうち18台を、来館した高校生用に開放し、長崎大学および附属図書館のホームページの閲覧を楽しんでいきました。

当日は次々と高校生が来館し、実際に開架資料に接し、また、上記展示や検索などにより、長崎大学および附属図書館について理解を深めて頂いたと確信しました。



(インターネットで検索する高校生)

各種データ・ベース説明会の開催

附属図書館では外部から講師を招いて、下記のデータベース説明会を実施しました。

- ・平成13年6月6日(水)
SciFinder Scholarの説明会
- ・平成13年7月10日(火)
JCR Web版及び
Web of Scienceの説明会
- ・平成13年11月1日(木)
SciFinder Scholarの説明会
- ・平成13年11月9日(金)
JCR Web版の説明会
- ・平成13年11月16日(金)
SciFinder Scholarの説明会

11月1日のSciFinder Scholarの説明会は、再度の開催の要望があり、11月9日に重ねて開催いたしました。

その後、SciFinder Scholarにつきまして、研究者の要望により従来のCA on CDから契約を変更することになり、具体的に説明会の成果が実現しました。

また、11月9日のJCR Web版の説明会では、学部の協力も得ながら、一日に中央図書館・医学分館・経済学部分館の3ヶ所の会場で実施しました。

同日のJCR Web版の説明会の質疑応答の際に、参加された方からWeb of Scienceのトライアルの要望が出されたので、今後機会をみて図書館側でもトライアルを実施したいと考えています。

説明会を開催するにあたっては、事前に全教官あてにメールで説明会のご案内を流しておりますので、今後とも多数のご参加をお待ちしております。

研修報告：平成13年度大学図書館職員長期研修に参加して

情報システム係長 宮脇 英俊

平成13年7月9日から27日の日程で東京地区及び筑波地区を会場に平成13年度大学図書館職員長期研修に参加してきた。

この研修は、学術情報に関する最新の知識を教授し、職員の資質と能力の向上を図ることにより、大学図書館の情報提供サービス体制を充実することを目的としている。また、その裏では「人的ネットワークづくり」という側面もあるということ为先輩方から聞かされていた。

総勢33名（男性16名、女性17名）の面々は、北海道から鹿児島まで国公立大学図書館に勤務するもので構成される。

今年の関東の夏は九州よりも早く梅雨明けしたように、38度を超す酷暑の連続であった。その暑さに負けないように、3週間のあいだ講義に、ノミニュケーションにと、時を忘れ熱く過ごして参りました。

講師の方の心に残る言葉がこの研修を総括しているのではないと思いここに紹介します。人格形成において「V S O P」が大事だということである。10代20代はVitalityの時だがむしゃらに失敗を恐れずバイタリティを出して立ち向かう。30代はSpecialityの時で自分の専門分野をものにする。40代はOriginalityの時で自分独自のオリジナルを作り上げる。そして50代になり初めてPersonality個性豊かな人となるというものである。

私をそれに当てはめるとSの後半Oに突入する前となる。今までの人生を振り返り、これから迎える時代に挑戦し、豊かなパーソナリティが築けるような生き様でありたいものである。そんな形成の場がこの研修であったと思う。中でも強く肝に銘じたことは、今の大学が、というより日本の国そのものが変革しなければ生き残れない状況にある中、先頃出された法人化に関しての遠山プランにあらわれているように、大学は人間と同じく個性化の時代を迎えな

なければならない。そのような変革の時代を乗り切るために、視野を広く情報収集に努め、競争力を持った図書館員になり、企画力を備え戦略的なプレゼンテーションを行える能力を身につけることが重要ではないかと思うのであった。

3週間のあいだ、電子ジャーナルに代表される図書館界での最新の動向や大学を取り巻く状況、また各施設の見学、班に分かれての討議の時間と、中身の濃い内容であった。この研修でともに過ごした同士と出会えたことは一生の財産となることであろう。早速職場に戻って、同期会のメーリングリストを立ち上げたところである。このMLがこれからの生涯において大切なコミュニケーションの場になれることを切に願うものである。

最後に文部科学省並びに図書館情報大学の関係者の皆様方、3週間の長きにわたりお世話していただいたことと、職場の長期の不在を許していただいた、部長をはじめとする本学図書館関係の方々にこの場を借りて御礼申し上げます。

研修報告：情報処理軽井沢セミナー「linux活用」 (2001年8月27日～31日)

情報管理課情報システム係 深川昌彦

情報処理軽井沢セミナーは、高度化する学術情報基盤に対応できる最新の情報処理技術・理論を習得し、今後の学術研究活動を支援する要員の育成を目的に実施されたものである。今回のテーマは「linux活用」であり、サーバ機能を果たすソフトウェア会社の多くがlinux上での動作を正式サポートしはじめている現在、システムの一部など今後導入の可能性は高いと考えられるため、linux上での環境構築やセキュリティに関する知識を得る必要があるため、受講申し込みをした。

今回は、VINE、Slackwareと2種類のDistributionを使用して環境を構築したが、OSのインストール自体はパーティションの変更作業を除くと、Windowsのインストール作業と大差なかった。また、インストール時にすべてのパッケージをインストールすることを選択した場合、インストール後にそのまま多くのdaemonを起動してしまう。これは、インストールしたPCに不要な負荷をかけるばかりか、意図しないサービスを起動させ、安全性の確保を困難にする。そのため、サーバとして動作させる環境構築では、必要最低限のパッケージを選択する必要があると思った。ハードウェアの構成でのチップセットの説明をされ、OSが起動可能なHDDの範囲など、普段気にしていないことがとても重要であることが理解できた。カーネルの再構築ではSlackwareを使用した。この時に罣にはまった。

「make clean」で完全にクリーン状態になると思っていたのだが、今回の演習中、どこかにゴミが残っていたのか、完全なクリーン状態にならず、大変困った。共同作業者と2～3時間悩んだ挙句、講師に質問したところ、完全にクリーンにするときは、「make distclean」を行うことを教わり、バックアップされていたconfigファイルから再度チャレンジし完了した。全体的にセキ

ュリティ関連の説明・実習時間が少なく感じたが、基本的なセキュリティ対策(ssh、tcp_wrapper)ツールの設定方法やセキュリティチェックのためのツール群とその使用方法など大変参考になった。VMwareや超漢字などの紹介があり、VMwareのx86エミュレート機能は感動的で、DHCPの機能、最新のBIND設定など、FreeBSDがサポートされていない（一応、VMwareのメニューにはあった）のが少々残念だった。超漢字については使ってみなかったというのが正直な感想である。トンパ文字の表示はとても印象的だったが・・・。sendmail/qmailのコンパイル・設定、メリットとデメリットなど、qmailの設定は面倒だと思っていたため大変参考になった。popは簡単な標準的なqpopperの説明で、時間的に難しかったのか、APOP対応への説明がなかったのは惜しいと思った。sambaの設定でも罣にはまった。コンパイル・設定と順調で、さあ起動というところで起動しない・・・。これは、先に動作しているdaemonがあったため、衝突して起動できなかったのである。linuxインストール時にすべてのパッケージを選択した場合は、同一daemonが常駐していないか確認しておくことが必要であろう。RAIDに関しては、解説のみだった、いずれ試してみたいと思った。

1週間で「linux活用」というほど習得できたかどうかは疑問だが、linuxの*癖*などは、罣にはまりながら覚えることができたと思う。今後どのように使っていくかは、今回のセミナーで得たことや職場に戻って試してみたことをすりあわせながら、「活用」に向けて可能性を模索したいと考えている。

人 事 異 動

分館長交替 7月16日付け(新任) 医学分館長 中村 卓
 臨時的任用 11月14日付け(新任) 情報サービス課経済情報係 尼崎 由美子
 ※平成14年8月31日までの任用

委 員 交 替

		(新)	(旧)
附属図書館委員会委員 (経済学部選出)	7月 1日付け	遠 藤 文 彦	津 曲 俊 英
医学分館運営委員会委員 (歯学部選出)	10月 1日付け	吉 田 教 明	水 野 明 夫
医学分館運営委員会委員 (歯学部附属病院選出)	10月 1日付け	吉 田 治 志	雨 宮 次 生

図 書 館 日 誌

7月 3日(火) 附属図書館委員会
 6日(金) 経済学部分館運営委員会
 米国人フルブライト国際教育交流プログラム参加者来館
 9日(月) 平成13年度大学図書館職員長期研修(於;オリンピック記念青少年
 総合センター外 宮脇情報システム係長 ~7/27)
 12日(木) 長崎県大学図書館協議会研修企画委員会
 16日(月) 医学分館長辞令交付(館長室)
 19日(木) 附属図書館係長会議
 28日(土) 平成13年度九州地区国立大学附属図書館ソフトボール大会(於;鹿児島大学)
 31日(火) 医学分館運営委員会
 8月 1日(水) 電子ジャーナル・サブ・コンソーシアム立ち上げ準備会
 (於;九州大学附属図書館 志波原資料管理係長)
 2日(木) 電子ジャーナル・ユーザー教育担当者研修会
 (於;名古屋大学情報メディア教育センター 下田電子情報係長)
 27日(月) 平成13年度「情報処理経井沢セミナー」
 (於;長野県、国際高等セミナーハウス 深川情報システム係員~8/31)
 28日(火) 図書館職員著作権実務講習会(於;神戸大学発達科学部 金丸参考調査係長~9/1)
 30日(木) 長崎県大学図書館協議会研修会
 9月 8日(土) 長崎県大学図書館協議会公共図書館見学会

- 9月12日(水) 長崎県大学図書館協議会研修会(於;活水女子大学)
附属図書館委員会
附属図書館委員会収書専門委員会
- 20日(木) 第11回九州地区医学図書館員セミナー
(於;北九州市 産業医科大学 宮崎医学情報系員 ~9/21)
- 26日(水) 附属図書館系長会議
- 27日(木) 平成13年度新CATT/I LLシステム説明会及び学術雑誌総合目録欧文編データ
更新説明会
(於;九州大学 附属図書館 佐々木資料管理系員 ~9/27)
- 10月11日(土) 大村城南高校より見学
- 22日(月) 附属図書館系長会議
- 25日(木) Dublin Core とメタデータに関する研修
(於;国立情報学研究所 重里情報管理課長)
- 26日(金) 長崎県大学図書館協議会講演会
- 11月 6日(火) 平成13年度大学図書館職員講習会
(於;大阪大学附属図書館 深川情報システム係員 ~11/9)
- 9日(金) JCR(web版)に関する説明会
- 14日(水) 第18回医学図書館研究会継続教育コース
(於;北里大学林模原校舎 宮崎医学情報系員 ~11/16)
- 平成13年度九州地区国立大学附属図書館長懇談会(於;九州大学附属図書館)
- 平成13年度九州地区国立大学附属図書館事務(部・課)長会議
(於;九州大学附属図書館 ~11/15)
- 平成13年度九州地区国立大学附属図書館電子化推進連絡会議
(於;九州大学附属図書館)
- 15日(木) 平成13年度九州地区国立大学附属図書館人事担当事務(課)長会議
(於;九州大学附属図書館)
- 平成13年度九州地区国立大学附属図書館協議会実務者連絡会議
(於;九州工業大学 下田電子情報系長)
- 19日(月) 医学分館運営委員会
- 28日(水) 国立大学図書館協議会シンポジウム(西地区)
(於;京都大学附属図書館 志波原資料管理系長)

長崎大学附属図書館報 図書館ニュース No. 84 2001年11月30日発行

編集委員会 委員長 村上章徳

委員 金丸明彦・堤尚子・塩塚一枝・原田一洋・山下昭光

発行 長崎大学附属図書館 〒852-8521 長崎市文教町1-14 電話(095)847-1111(大代表)

HP アドレス <http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/index-j.html>